

大会を終えて

第32回全国（岡山）大会を終えて

岡山県立記録資料館 杉山一雄

はじめに

昨年11月の福井大会で、第32回の会場県として正式にお引き受けしたわけですが、それからはとにかく、いかにして人的・経費的に省力化を図るかが思案のしどころでした。

何分、平成17年9月に開館したばかりなので、館内は整理途上であり、多くの人をお迎えする状態にはなく、また館員は正式職員4名、嘱託・臨時職員を含めても9名で準備をしなくてはなりません。

そこで、職員は会場準備と館内整理に重点を置き、受付に関する業務全般を外部委託し、委託業者に対して指示・管理をすることにしました。

その結果、幸いにして予想以上に会場準備と館内整理に時間を取ることができ、大会資料の作成・準備、事務的業務も最小限で実施することができました。

会場

主会場は、岡山市内で決定していたので、経費削減の視点を重視し、市内の公的施設の中から選択しました。人数・研修会や分科会などの部屋数・立地を考慮すると、会場を2つの施設に分けざるを得ませんでした。このため、参加者の皆様には会の合間の移動で、慌ただしいことになってしまい、ご迷惑をおかけしました。

また、協賛企業・機関の展示会場を5階に設置したため、少ない休憩時間にゆっくり見学できなかったのではないかと反省し

ております。

ただ、全体に会場はかなりゆとりをもって、広く使っていただけたので、研修会・研究会では発表内容に熱心に耳を傾けている様子が伺えました。

大会運営

先にも触れましたが、今回は受付業務に関する一切の事務を外部委託しました。

主な内容としては、参加申込みの受付・変更、それに基づいた名簿の作成、参加費等の計算・入金確認及び、請求書・領収書の発行・発送、宿泊所の斡旋・受付があります。

これらの事務は、参加者個々別々であり、変更・追加は前日まで続きます。そのため、これまで開催県事務局の事務担当者が、最も苦しめられていた業務といえます。しかしながら、今回は、業者が作成した参加者名簿を基に大会を運営するだけでした。精算業務は、大会終了後に業者から一括して参加費等の入金を受け、そこから、業者の手数料や必要経費を支出するので、煩雑な事務に手を取られることはありませんでした。

ただ、参加者の皆様には依頼した書類が大会当日になっても届かなかったり、また、所属・氏名に誤記があったことが名札回収後に明らかとなり、反省点多々ありました。

懇親会

昨年の大会後のアンケート結果から、で

きるだけ低コストで、それでいて参加者の皆様に満足していただき、その上で「晴れの国おかやま」を印象づけるおもてなしをすることを主眼に企画しました。

福井大会では私も懇親会に参加しました。その時の印象では、参加者の方々は、まさに親睦を深め、情報を交換するために参加されていると実感しました。

そのため、今回は139名の出席希望だったので、会のスタイルを立食形式から座席形式に変更しました。席の合間を縫って移動するにはやや狭小な感もあったかもしれませんが、アトラクションなどをなくしたので、落ち着いて食事を取りながら歓談してもらえたようです。

また、各テーブルには岡山の晴れの日には欠くことのできない「祭り寿司」を置き、目で楽しんでいただきながら、酒所岡山として館員厳選の地酒をバー形式で揃え、交流の潤滑油にさせていただくことにしました。

当方の意図はさておき、アンケート結果ではおおむねご満足いただき、親睦も深まった様子でひとまず安堵しています。

視察

施設見学は、希望者全員を一度にお迎えするには当館だけでは狭く、見学していただく内容も決して多くありません。このため、前・後班の2班構成をとり、当館に立地的に近く、設立趣旨も近似した岡山市デジタルミュージアムに施設見学をお願いし快諾を得ました。

岡山市デジタルミュージアムは、その名の通り、「岡山の歴史と今をデジタル技術の活用・実証を通して、記録・保存・展示・発信」することを目的として平成17年8月に開館し、広いスペースに最新の設備を見ることが出来ます。

一方当館は、既存の建物をリニューアルしており、限られたスペースをいかに有効に活用するか、また、記録資料の収集・保存・

活用をどのようにしていきたいか、といったことを館員3名で分担してお話ししました。

事前の申込み状況では、前班105名、後班36名と偏っていましたが、大会会場での司会者からのお願いにご協力をいただき、ほぼ1：1の人数比率でご案内することができ、参加者の方々には大変感謝しております。

ただ、当館館内は通路が狭く、ゆっくりと見学できなかった方も多かったことと思います。又、機会をみてお出でいただければじっくりとご案内させていただきます。

しかしながら、徒歩による参加者皆様の移動にあたって懸念してまいりました天候も、視察当日は幸いに好天に恵まれ、あまりご無理をかけることなく移動していただけたことが幸いでした。

おわりに

今大会は、「アーカイブズの新時代へー理想と現実のはざまでー」をテーマに開催しました。

閉会後のアンケート集計を拝見すると、どの会場でも活発な意見交換や討議がなされ、意義深いものであったようです。開会にあたって、岡山県を代表して挨拶しました総務部長の言葉の中にもありましたが、「理想という長期構想かかげ」、それぞれが「その理想を現実とするための大いなる成果」を皆様が得られたものと感じます。

参加された方々は、自治体や学校・企業・団体など、それぞれの所属先で資料保存に取り組んでいる方、また、郷土の歴史を伝えるべく自治体の外から保存運動に携わっている方など様々な立場で、今回の大会に臨まれたことと思います。しかし、立場は違っても、「将来に向けて歴史資料を保存し、活用できるようにしていく」という理想は同じであろうと思います。

この理想を再確認し、これからの活動の原動力の一助になったならば、今大会の開催事務局として幸いに思います。